

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)	地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)
<p>前文</p> <p>静岡市立静岡病院は、目まぐるしく変化する社会構造や医療環境に迅速・柔軟に対応するため、平成28年4月に地方独立行政法人に移行し、新たなスタートを切った。</p> <p>法人設立から平成30年度までの第1期中期目標期間においては、理事長以下職員が丸となり、“静岡市の未来を医療のちからで支える”との理念を掲げ、地方独立行政法人という新しい組織体の長所を最大限に活用して、弾力的・効率的な病院経営が有効に行われた。また、市立病院として担うべき救急・感染症・災害時医療等の公益性の高い医療は、継続的・安定的に提供されている。</p> <p>本市では、高齢化率が29%を超え(H29)、人口減少も他の自治体同様確実に進展することが見込まれることから、団塊の世代が75歳以上となる2025年、さらにその先を見据えて、市として様々な課題を解決していく必要がある。</p> <p>本市が掲げる5大構想を踏まえて策定した「静岡市健康長寿のまちづくり計画」(平成30(2018)年度～平成34(2022)年度)においては、施策体系を「富士山型」とし、「裾野」の分野では、市民が自ら健康づくりを進める取組を、「山腹」の分野では、市民の連携により地域を支える取組を、そして医療が位置づけられる「山頂」の分野では、医療・介護の体制整備の必要性を示している。</p> <p>市民に最新の高度医療・専門医療を提供する病院機能は、市民が安心して地域で過ごすための都市基盤として、必要不可欠な「社会的共通資本」であり、また、病院がすべての患者のために安定的に医療を提供することは、世界共通目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の理念に沿うものである。</p> <p>静岡病院においては、文字通り本市の医療を支える基幹病院として、引き続き高度急性期～急性期の医療を提供するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けた在宅医療と介護等との連携を図る等、適切に状況に対応していくことが求められている。</p> <p>さらに、医療計画、地域医療構想等、広域医療行政における病院としての立ち位置を見定めることも同時に重要である。</p> <p>第1期中期目標期間中の実績を踏まえた上で、静岡病院が今後も継続的に市民が必要とする地域の基幹病院としての役割を果たし、ひいては本市が掲げる「健康長寿のまち」の推進を図るため、第2期中期目標を定める。</p>	<p>前文</p>

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)	地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)												
第1 中期目標の期間	第1 中期計画の期間												
2019年4月1日から2023年3月31日までの4年間とする。	2019年4月1日から2023年3月31日までの4年間とする。												
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置												
<p>1 静岡病院が担うべき医療</p> <p>(1) 地域の特性に配慮した医療の確立と提供</p> <p>少子高齢化が急速に進行する中、限られた資源で、増加が見込まれる医療需要に対応し、市民に病状に応じて適切な医療が提供できるよう、病床の機能分化や他病院との連携を図りながら、地域の基幹病院としての役割を果たすこと。</p> <p>(2) 救急医療</p> <p>医師不足の影響等により、本市の救急医療が逼迫する中、市立病院として、その体制維持において中心的な役割を担っているところであるが、今後においても、関係医療機関との連携・協力を一層推進し、市とともに救急医療を支えること。</p>	<p>1 静岡病院が担うべき医療</p> <p>(1) 地域の特性に配慮した医療の確立と提供</p> <p>地域の医療提供体制の将来の目指すべき姿である「静岡県地域医療構想(平成28年3月策定)」を踏まえ、入院や手術による治療を必要とする急性期医療・高度急性期医療を担う病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、住民が必要とする医療の提供に努めます。</p> <p>参考値</p> <table border="1" data-bbox="1227 722 1836 1002"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>74.4%</td> <td>76.5%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>107.1%</td> <td>103.5%</td> </tr> <tr> <td>在宅医療・介護連携会議への参加回数</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>会議の開催はH30年度から</p> <p>(2) 救急医療</p> <p>断らない救急医療をモットーに、軽症の患者から重症の救急搬送患者、さらには他の医療機関で受入困難とされた患者まで、24時間365日体制で対応できる医療機関として、より多くの患者を受け入れられるよう適切な病床管理などを行うとともに、必要な医師及び医療スタッフの確保に努め、「医の原点」である救急医療を継続的かつ安定的に提供します。</p>	項目	平成28年度実績	平成29年度実績	紹介率	74.4%	76.5%	逆紹介率	107.1%	103.5%	在宅医療・介護連携会議への参加回数	—	—
項目	平成28年度実績	平成29年度実績											
紹介率	74.4%	76.5%											
逆紹介率	107.1%	103.5%											
在宅医療・介護連携会議への参加回数	—	—											

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(3) 感染症医療

本県で唯一の第一種感染症指定医療機関として、感染症患者の受入体制を維持するとともに、感染症による患者の発生時等において、市及び関係機関と連携し、地域の感染症医療における中核的な役割を果たすこと。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
救急搬送患者数	5,894人	6,161人
重症患者の受入実績 (救急医療係数※の 偏差値)	静岡県内1位 (63.6)	静岡県内1位 (68.4)
市内輪番制 救急当番日の実績		
内科	83日	81日
外科	85日	88日
小児科	47日	43日

※ 救急医療係数

救急患者のうち、重篤で多くの検査・処置などが必要な患者を受け入れる病院を評価するための数値

(3) 感染症医療

県内唯一の第一種感染症指定医療機関の役割を果たすため、施設・設備の整備点検、人員の確保、防護服の着脱訓練等の実施など、感染症患者を常時受け入れられる体制の維持に努めます。

また、患者発生を想定した合同訓練等に協力するなど、院外の各関係機関との連携強化にも取り組みます。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
防護服の着脱訓練等の 実績 (参加延べ人数)	24人	24人

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

(4) 周産期医療・小児医療

市民が、安心して子供を産み育てることができるよう、産科医及び小児科医の安定的な確保に努めるとともに、他の医療機関との連携及び役割分担に基づき、効率的かつ質の高い周産期・小児医療を担うことで、市が目指す「子育てしやすいまち」に寄与すること。

(5) 災害時医療

市民の安心・安全を守るため、災害拠点病院として、大規模災害発生に備え、必要な人的・物的資源を確保し、訓練や対応マニュアルの整備を行うとともに、大規模災害発生時には、災害医療派遣チーム(DMAT)の派遣等、医療救護活動に取り組むこと。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(4) 周産期医療・小児医療

地域周産期母子医療センターとしての役割を担い、早産や合併症等のハイリスク症例を受け入れ、近隣の専門病院等と連携しながら質の高い周産期管理を行います。

さらに、異常分娩時の際に当院の小児科医師立会いによる迅速・適切な治療の提供や、助産師による妊婦保健指導など、地域の住民が安心して子どもを産み育てることができる環境の整備に取り組みます。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
分娩件数	311件	261件
ハイリスク症例(母体合併症等)件数	44件	25件
小児救急搬送受入件数	946件	867件

(5) 災害時医療

a 被災時における病院機能の損失をできるだけ少なくするため、機能回復を早急に行い、継続的に診療ができるよう事業継続計画(BCP)及びマニュアル等に基づく訓練を実施します。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
防災訓練		
開催回数	2回	2回
参加延べ人数	約250人	123人

b 非常電源や水源の確保など災害時に必要となる施設・機器の更新や維持管理を行うとともに、医薬品や医療資器材、食料の必要な備蓄等を行います。

(6) 高度医療・専門医療

① 心臓・血管疾患

地域における心臓・血管疾患治療の中心的な役割を担ってきた伝統と実績を踏まえ、引き続き、高度で専門的な治療を行うとともに、今後も他の医療機関との連携推進に取り組むこと。

c 大規模災害発生時の援助要請に応えられるよう、引き続き災害医療派遣チーム(DMAT)を編成し、積極的に医療救護の協力を行います。また、国及び中部地区などで開催される合同訓練に参加し、質の向上と維持を図ります。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
DMAT訓練参加回数	3回	4回
DMAT隊の 所有チーム数	1チーム	2チーム

(6) 高度医療・専門医療

① 心臓・血管疾患

循環器内科と心臓血管外科が連携し、「ハートセンター」として、大動脈瘤に対するステントグラフト、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)などの最先端の治療を提供していきます。

また、疾患別ネットワーク等による病診連携・病病連携の推進に取り組み、患者の受け入れ件数の向上に努めるなど、地域における心・血管疾患治療の中心的な役割を担います。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
心臓血管外科		
開心術	375件	367件
ステントグラフト	97件	108件
ペースメーカー手術	185件	167件
循環器内科		
心臓カテーテル検査	2,596件	2,540件
冠動脈インター ベンション	477件	469件
TAVI	22件	37件
カテーテル アブレーション	177件	197件

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

② がん

地域がん診療連携拠点病院として、患者の病態に応じたより適切で効果的ながん治療の推進や先進的で質の高いがん医療の提供等、さらなる機能強化を図ること。

また、がん検診実施機関や他の医療機関と連携してPET/CTを活用した検診等に取り組むとともに、緩和ケアやがん相談等、がん患者やその家族の「がんと共生」の支援を行うこと。

2 地域の医療機関等との機能分化及び連携強化

(1) 地域における診療機能と役割

急性期の医療を担う中核病院としての役割を踏まえ、患者を早期に急性期から脱するよう入院機能の質及び効率性を高めるとともに、地域医療支援病院として、地域のかかりつけ医との適切な役割分担のもと、医療機能や役割に応じて患者の紹介を受け、または逆紹介を行う等、地域の医療機関と連携し、必要な支援を行うことで、地域の医療水準の向上に寄与すること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

② がん

豊富な治療実績やPET/CTなどの高度な医療機器を生かし、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療を提供します。さらに、外来でのがん治療を推進し、患者の選択肢を広げ、患者の負担軽減に配慮した医療の提供に努めます。

また、治療だけでなく、緩和ケア内科、緩和ケアチーム、がん相談支援センターを中心に、患者やその家族への生活支援を行うなど、地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん対策を実施します。

さらに、近隣の健診施設との連携により、がんの早期発見に有効なPET/CT検査や、婦人科検診を実施し、地域の市民の健康を支えます。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
PET/CT稼働件数	— ※1	743件
悪性腫瘍の手術件数	994件	1,010件
がん化学療法延べ患者数	3,336人	3,774人
放射線治療件数	254件	264件
がん相談支援件数	— ※2	2,874件
産婦人科によるがん検診等の件数	— ※3	116件

※1 PET/CTはH29年度から稼働

※2 H29より件数の算出方法が変更

※3 がん検診はH29年度から実施

2 地域の医療機関等との機能分化及び連携強化

(1) 地域における診療機能と役割

地域医療連携の中心的な役割を担い、診療所や病院など地域の医療機関との連携を推進し、紹介・逆紹介の更なる強化を図るため、医師会との連携システムの活用や、「病診連携カンファレンス」などの診療所との顔の見える連携に取り組めます。

また、重篤な患者の受入れを進め、急性期の治療を終えた患者には、患者の病状に適した施設で医療の提供が行われるよう、役割に応じた機能分担を推進するため、「地域連携室」、「総合相談室」、「入退院支援室」が総合相談センターとして一体的に取り組み、スムーズな入院受入れや早期からの退院支援などを行います。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(2) 行政機関、在宅医療・介護との連携強化

地域の医療をオール静岡で支えていくため、市の医療関係部局にとどまらず、市教育委員会や消防局等、関連する市の部局や市以外の関連団体・組織と協働して事業を展開すること。

また、市や在宅医療機関、介護サービス事業者等との連携強化に取り組み、市が第3次総合計画や5大構想に掲げる静岡型地域包括ケアシステムの推進に寄与すること。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
紹介率(再掲)	74.4%	76.5%
逆紹介率(再掲)	107.1%	103.5%
病診連携がんカンファレンスの開催回数	12回	12回
入退院支援の件数※1	2,989件	5,214件

※1 入退院支援加算

入院前から、入院中の治療や栄養管理などに係る療養支援の計画を立て、その内容を患者及び関係者と共有等した場合に算定できる診療報酬

(2) 行政機関、在宅医療・介護との連携強化

市や介護関係機関との連携を推進し、患者が在宅医療などへ円滑に移行できるよう、「総合相談センター」による医療、福祉、保健サービスなどを活用した質の高いケアマネージメントを提供し、地域包括ケアシステム構築の実現に寄与します。

また、引き続き、市の関係課や消防局等との連携に努め、救急医療などの政策的医療を継続的かつ安定的に提供します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
退院時共同指導件数 ※2	187件	194件
介護支援連携指導件数 ※3	1,985件	711件
在宅医療・介護連携会議への参加回数(再掲)	—	—
消防局の救急救命士		
実習受入人数	6人	6人
実習延べ日数	78日	100日

会議の開催はH30年度から

3 市民・患者の視点に立った医療サービスの提供

(1) 患者中心の医療の提供

患者の視点に立ち、医療行為に係る情報提供や説明責任を果たし、患者の意思を尊重した医療の提供を行うとともに、きめ細やかな患者サービスを実施するため、人員の配置等の診療体制の充実を図ること。

3 市民・患者の視点に立った医療サービスの提供

(1) 患者中心の医療の提供

- a 医療情報システムなどを活用し、各職種が保有する患者情報を共有するとともに、医療の提供に当たっては、患者やその家族の立場に立った誠意ある対応を心がけ、インフォームドコンセントの徹底、患者・家族からの相談に幅広く対応する「総合相談センター」など、患者中心の医療の提供を行います。
また、看護体制とともに、薬剤師・栄養士などの体制も充実させて病棟配置をする等、多方面からきめ細かい患者サービスを実施します。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
医療相談件数	6,740件	5,090件
病棟薬剤師配置人数	18人	18人
栄養指導件数	3,121件	3,582件

- b 患者やその家族が、治療方法等の判断に当たり主治医とは別の医師の意見を求めたとき、適切にセカンドオピニオンを受けられる体制の整備を行います。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
セカンドオピニオン		
受入	29件	28件
紹介	42件	65件

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

(2) 市民への情報発信と公益に資する取組

病院の診療情報や経営状況、疾病に関する情報等について、パンフレット、ホームページ等の媒体や健康講座により、市民が必要とする情報を迅速、正確に発信し、市民の病院の活動や医療についての理解を深めること。

がんに関する知識普及のため、静岡病院が提唱し、市教育委員会との連携により開始した中学生等を対象としたがん教育を更に推進すること。

病院が開催する心肺蘇生・AEDに関するセミナー等を通じて、救急蘇生の普及啓発等について、市と協力しながら推進すること。

中学生・高校生等を対象とした医療体験講座等の実施により、次世代の医療を担う人材育成に寄与すること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(2) 市民への情報発信と公益に資する取組

病院の機能、診療科及び各疾患の診療実績など、市民・患者が求める情報をウェブサイト、パンフレット、院内広報誌などの媒体を通じて情報提供を行うとともに、院内での健康教室や、院外での健康講座等を積極的に開催し、対面でのコミュニケーションによる情報発信を行います。

教育関係機関と連携し、がんに関する知識普及のため、当院の医師が市内中学校で授業を行うなど、学校教育における「がん教育」活動に取り組みます。

市民に対して、応急手当に関する普及啓発、AEDの使用方法及び心肺蘇生法の正しい知識と技術の普及に関する講習(セミナー等)を開催します。

将来を担う若者(中学生・高校生等)を対象に、医療及び医療職に対する理解を深めるための活動として、医療体験講座等を実施します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
静岡市民「からだ」の学校(都市部)参加延べ人数	620人	579人
静岡市民「からだ」の学校(山間部)参加延べ人数	157人	108人
病院体験セミナー(学生)参加延べ人数	35人	49人
市内の学校での「がん教育」活動回数	— ※1	4回
救急(心肺蘇生・AED)セミナー参加延べ人数	—	—
病院出前講座参加延べ人数	535人	650人

※1 H29年度から活動開始

セミナーの開催はH30年度～

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

(3) 患者ニーズの把握及び迅速な対応

患者本位の医療を実現するため、常に患者ニーズを意識し、対応策や改善策を迅速、的確に行うことで、患者満足度の向上を図ること。

(4) 接遇に対する職員の意識向上

職員一人ひとりが、患者やその家族の立場を理解し、患者の不安や不満を取り除き、心のこもった応対ができるよう、職員の接遇向上を図ること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(3) 患者ニーズの把握及び迅速な対応

来院者へのアンケート調査や、待ち時間調査、提案箱の意見回収等により、患者ニーズの把握に努めます。さらに、患者の意見等については、院内会議等で職員へ周知し、迅速に対応(回答)するとともに、医師、看護師、事務職の多職種で構成された検討会を毎月開催するなど、改善に向けた取り組みを継続的に行います。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
患者満足度調査 概ね満足とした割合	90.6%	88.7%
提案箱意見件数	179件	203件
患者意見等検討・ 改善部会開催回数	— ※1	6回

※1 検討会の開催はH29年度から

(4) 接遇に対する職員の意識向上

市民及び患者から信頼される病院であり続けるため、病院の基本理念・基本方針の徹底や、職員への接遇研修を実施することにより、職員の接遇への意識向上及び接遇能力の向上を図ります。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
患者満足度調査 (接遇項目のみ) 概ね満足とした割合	83.1%	85.0%

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

4 組織力を生かした診療体制

(1) 部門を超えた連携の強化

医療の専門性を生かしつつ、病院の人的資源が効率的かつ有効に機能することができるよう、診療科間や医療各部門間、医療部門と事務部門間の垣根を取り払い、相互の自由闊達なコミュニケーションを図ることによって、院内の連携体制を強化し、組織力の向上を行うこと。

(2) チーム医療

医療の高度化、複雑化に対応し、患者の状況に的確に対応した医療を提供するため、多職種によるチーム医療を推進すること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

4 組織力を生かした診療体制

(1) 部門を超えた連携の強化

医師や看護師など、各職種が連携し、それぞれの専門性を最大限に発揮することができる業務執行体制とします。

多職種によるカンファレンスの充実や、医療機器等の更新・整備に伴う多職種合同会議の開催、入院から退院までの診療計画策定に看護師や栄養士など複数の職種が関わるなど、院内の連携を一層推進する取り組みを実施します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
多職種連絡委員会の開催回数	6回	6回
多職種合同の部門連絡会の開催回数	12回	12回
多職種による診療計画策定の件数	13,110件	12,782件

(2) チーム医療

感染対策、褥瘡対策、栄養サポートなど、テーマごとに多職種が連携する医療チームを編成し、専門的で質の高い医療を提供します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
栄養サポートチーム(NST)回診回数	89回	62回
感染対策チーム(ICT)回診回数	52回	52回
褥瘡対策チーム回診回数	62回	41回
緩和ケアチーム対応患者数	59人	88人
呼吸サポートチーム回診回数	46回	52回
認知症ケアチーム回診回数	—	—

H29年度末から活動開始

5 安心・安全な医療の提供

(1) 医療安全対策

市民に対し、安心・安全な医療を提供するため、職員全員が医療安全への意識を高めるとともに、医療事故や院内感染の発生・再発防止に向けた取組を組織的に行うこと。

5 安心・安全な医療の提供

(1) 医療安全対策

- a 医療事故や院内感染の発生・再発防止への取り組みとして、医療安全管理室、感染管理室及び各委員会が中心となり、問題点の検討や改善案の立案を行うとともに、日常的な現場レベルでの活動にも取り組みます。
また、医療事故や院内感染が発生した場合は、速やかに適切な初期対応を行い、発生状況を調査した上で再発防止対策に取り組みます。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
医療安全管理委員会 開催回数	12回	12回
医療安全研修等の 参加(受講)延べ人数	1,084人	1,481人
院内感染対策委員会 開催回数	12回	12回

- b 病院内での患者トラブル・悪質クレームに対応するため、警察OBの配置や、暴言・暴力対策について、職員に院内研修を実施するなど、職員が安全に働くことができるよう、危機管理の一環として組織的に取り組みます。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
暴行対策研修 参加延べ人数	—	48人

研修の開催は
H29年度～

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

(2) 法令・行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底

医療法等の関係法令を遵守し、行動規範の確立及び実践により、適正な業務運営を行うこと。

また、個人情報保護や情報公開等に関して、国のガイドラインや市の関係条例に基づき、適切に対応すること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(2) 法令・行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底

- a 公的医療機関にふさわしい行動規範と職業倫理を確立するため、医療法をはじめとする関係法令を遵守し、内部規定の策定、内部統制推進責任者及び内部統制部門などによるチェック等を通じて、適正な業務運営を行います。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
内部監査の実施回数	2回	2回

- b 個人情報保護及び情報公開については、関係する法令、ガイドライン、並びに市の関係条例を遵守するとともに、院内マニュアルに基づき適正に対処するほか、患者等からの情報開示請求については誠実に対応します。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
個人情報保護推進委員会 の開催回数	2回	2回
診療録開示件数	58件	48件

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置

1 業務運営体制の構築

1 業務運営体制の構築

(1) 効率的な業務運営の実現

医療環境の変化に柔軟かつ的確に対応し、目標を着実に達成できるよう、地方独立行政法人制度の特徴を生かし、自律性、機動性に優れた効率的な業務運営体制の構築を図ること。

(1) 効率的な業務運営の実現

患者の動向や疾病構造の変化に迅速に対応するため、理事会や幹部会議等の継続的な開催や、各部門の責任者や院内委員会等に明確な役割分担と適切な権限配分を行うとともに、経営戦略の機能強化等を行い、効率的で質の高い経営ができる体制を維持します。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
組織全体へ周知等を図る会議などの開催回数		
運営会議	12回	12回
部門連絡会	12回	12回
幹部会議	24回	24回

(2) 組織的な業務改善の取組

病院の全職員が経営に関する意識を高め、組織として業務改善を継続的に取り組むこと。

(2) 組織的な業務改善の取組

組織として、医療の質の向上及び経営基盤の強化などに向けた業務改善に継続して取り組めるよう、全職員に診療・経営データや法人情報等を適時かつ的確に周知し、職員向けの業務改善セミナーや講演会を行うなど、病院全体の経営参画意識の向上に努めます。

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
経営改善研修会の参加延べ人数等		
外部講師による講演会	1回開催 110人	2回開催 306人
院内の職員合同講習会(勉強会)	3回開催 483人	3回開催 392人

(3) 市民との協働による病院運営の実施

市民に身近で親しみやすい病院として、市民参画・協働を意識した病院運営を行うこと。

2 優れた人材の確保・育成

(1) 医療従事者の確保

医療を支える優れた知識と専門性を有する医療従事者の確保に努めること。特に医師については、後期研修医の確保を充実させるため、新専門医制度に的確に対応すること。
また、魅力ある研修制度を構築し、医療従事者の確保に繋げること。

(3) 市民との協働による病院運営の実施

院外では、地元自治会等と共同して市民公開講座などを実施します。
院内では、外来患者さんの案内や、入院患者さんの為の図書準備、「がん患者サロン葵」の運営にかかるピアサポーターとしての活動など、様々な場面でボランティアの皆さんと協働して病院運営に取り組みます。
また、学生ボランティアによる季節ごとのフラワーアレンジメントや院内コンサートなど、患者さんの心を癒す活動を実施します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
地元自治会等との共催事業の実施回数	3回	3回
院内でボランティア活動をされた方の延べ人数	517人	515人
学生ボランティアによるフラワーアレンジメント展示回数	4回	5回
院内コンサートで学生ボランティアとして協力された方の人数	45人	30人

2 優れた人材の確保・育成

(1) 医療従事者の確保

a 専門医の資格取得の支援や学会等の参加を奨励し、医師の専門性の向上を図ります。さらに、新専門医制度における内科及び外科の基幹病院として、後期研修医の確保と育成に努めます。
また、教育研修管理室が中心となり、研修医の意見を取り入れながら、研修プログラムの充実、シミュレーションラボの効果的な運用などに努め、研修医から選ばれる病院を目指し、臨床研修指定病院として研修医の技術・知識の向上に寄与します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
臨床研修医募集定員充足率	100%	100%
臨床研修指導医数	52人	63人
アンケートによる臨床研修医の満足度指数	93.9%	95.4%

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

(2) 教育・研修への取組

市民に提供する医療の質の向上のため、職員に対し、体系的に部門別研修やテーマ別研修を行う等、医療従事者のスキルアップを図る各種研修を充実させること。

- b 看護専門学校や大学などの養成機関との連携強化や随時募集により、医療環境や業務量の変化に応じた柔軟な看護師の確保、配置に努めます。さらに、看護実習施設としての役割を果たし、実習生を受け入れるとともに、学生に効果的な実習を行います。
また、認定看護師、専門看護師等の資格取得や学会等の参加を奨励します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
看護実習受入人数	213人	295人
認定看護師数 ※	10人	11人

※3月31日時点における資格保持者の人数

(2) 教育・研修への取組

職員が高い目標意識や倫理観及び熱意を持ち、高度で専門的な知識等を有する医療人になるため、新規採用職員を対象とする基本研修や接遇研修などの全職員共通のテーマ別研修を実施するとともに、各職種がそれぞれの部門において、専門性を有する研修及び研究発表会等を実施します。
また、内部講師の育成に向けて、外部セミナー等への職員の参加を奨励します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
新職員多職種合同研修の開催実績	3日間 新職員135人	2日間 新職員87人
看護研究発表大会の参加者数	312人	314人
接遇研修の参加延べ人数	1,302人	1,192人

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

3 新たな働き方の実現を目指した職場環境の整備

(1) 働き方改革への取組

「働き方改革」の実現に向け、医療従事者の健康やワーク・ライフ・バランスを確保するため、勤務負担の軽減、柔軟な勤務形態の整備等を行い、職員が安心して働くことができ、心身ともに健康を維持できるような職場環境の整備に努めること。

(2) やりがいを引き出す人事・給与制度の整備

職員の業績や能力を的確に反映し、努力が評価され、勤務意欲の向上に繋がる公正で客観的な人事評価制度を整備すること。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

3 新たな働き方の実現を目指した職場環境の整備

(1) 働き方改革への取組

職員が安心して働くことができるよう、ワークライフバランスの推進、ハラスメントを防止するための研修や啓発活動の実施などに取り組むとともに、政府が進める「働き方改革」を踏まえ、長時間労働の改善を目的に、変形労働時間制など多様な勤務形態の整備について検討し、質の高い医療の提供と医療現場の新たな働き方を目指し、病院の各部門が総力をあげて取り組みます。

参考値

項目	平成29年度実績	
	変形労働時間制導入前	変形労働時間制導入後
医師の平均時間外勤務時間数	56.5時間/月	46.5時間/月
長時間労働改善のための検証会議等の実施回数	8回	

(2) やりがいを引き出す人事・給与制度の整備

職員の勤務意欲等の向上を図るため、各職種及び各医療現場等の実態に即した公正で客観的な人事評価制度を構築し、職員の業績や資質及び能力を評価するとともに、適正な職員配置及び人材育成等に活用します。

参考値

項目	平成28年度実績	平成29年度実績
高難度専門資格を有する職員の人数※		
医師	84人	92人
看護師	10人	11人
医療技術員	11人	11人

※3月31日時点における資格保持者の人数

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)	地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)															
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置															
<p>1 経営基盤の確立</p> <p>(1) 経営基盤の確立</p> <p>市民が求める高度で良質な医療と公益性の高い政策的に担うべき医療を安定的に提供できるよう、中期目標期間を通じて、経営の効率化や健全化を図り、地域医療を支える基幹病院の役割を果たせる持続可能な経営基盤を確立すること。</p> <p>(2) 収入の確保</p> <p>収入増加に繋がる診療体制の充実や効率的な病床利用に努めるとともに、診療報酬改定や患者の動向等、医療環境の変化に的確かつ速やかに対応し、安定的な収入確保を図ること。</p> <p>また、未収金について、回収に努めるとともに、新たに発生しないよう取組を進めること。</p>	<p>1 経営基盤の確立</p> <p>(1) 経営基盤の確立</p> <p>医療制度改革などの病院経営に影響する環境の変化に迅速に対応し、収益の確保及び費用の節減に努め、当院が政策的に担うべき医療を提供するために必要な静岡市からの運営費負担金の交付の下、中期目標期間中の経常収支の黒字を維持します。</p> <p>参考値</p> <table border="1" data-bbox="1227 534 1836 850"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>101.4%</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>単年度資金収支比率</td> <td>113.8%</td> <td>96.7%</td> </tr> <tr> <td>自己資本比率</td> <td>26.3%</td> <td>26.5%</td> </tr> <tr> <td>流動比率</td> <td>242.6%</td> <td>262.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 収入の確保</p> <p>収入の確保のため、以下の項目を実施します。</p> <p>ア 専門的知識を有する職員の配置などにより、査定減や請求漏れ防止など、適切な診療報酬請求事務を行います。</p> <p>イ 限度額適用認定証などの公的扶助制度について、総合相談センターや病棟において利用の促進を図り、未収金の発生防止に努めます。</p> <p>ウ 各職種が診療報酬改定に迅速に対応するとともに、患者動向や病床利用の実態に合わせ、施設基準や診療報酬加算等の取得に関する検討を適時かつ適切に実施します。</p> <p>エ 地域の医療機関との連携強化を図り、紹介患者及び救急患者の増加につなげ、安定経営に必要な病床利用率を維持します。</p> <p>オ 退院支援を促進し、急性期病院として適正な在院日数の維持に努めます。</p>	項目	平成28年度実績	平成29年度実績	経常収支比率	101.4%	99.0%	単年度資金収支比率	113.8%	96.7%	自己資本比率	26.3%	26.5%	流動比率	242.6%	262.4%
項目	平成28年度実績	平成29年度実績														
経常収支比率	101.4%	99.0%														
単年度資金収支比率	113.8%	96.7%														
自己資本比率	26.3%	26.5%														
流動比率	242.6%	262.4%														

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)

参考値

項目	平成28年度 実績	平成29年度 実績
病床利用率	90.9%	89.3%
収納率(個人負担の現 年度分)	98.1%	98.6%
入院延べ患者数	165,836人	162,928人
外来延べ患者数	282,213人	277,006人
平均在院日数	12.1日	12.2日

(3) 費用の節減

職員全員がコスト意識を持ち、効率的な事業運営に努めるとともに、人件費の適正な管理、材料費の調達コストの削減等、費用の削減及び合理化を図ること。

(3) 費用の節減

費用の節減のため、以下の項目を実施します。

ア 職種による需給関係や給与費比率などを常に意識するとともに、医療安全の確保、医療の質や患者サービスの向上等に十分配慮したうえで、業務の効率化・業務量の適正化による給与費の抑制に取り組みます。

イ 医薬品や診療材料の調達コストを削減するため、後発医薬品の積極的な採用、市場調査に基づく価格交渉の更なる強化及び在庫管理の徹底に努めます。

ウ 各部門間のコミュニケーションにより、職員間での診療情報等の共有を進め、職員一人ひとりの経営への参画意識の向上を図るとともに、継続的に経営改善に取り組む組織風土を醸成します。

地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期目標(案)	地方独立行政法人静岡市立静岡病院 第2期中期計画(案)																		
	参考値 <table border="1" data-bbox="1227 209 1839 624"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費比率</td> <td>47.5%</td> <td>48.1%</td> </tr> <tr> <td>材料費比率</td> <td>31.0%</td> <td>31.3%</td> </tr> <tr> <td>後発医薬品指数</td> <td>83.9%</td> <td>85.6%</td> </tr> <tr> <td>経費比率</td> <td>16.7%</td> <td>17.3%</td> </tr> <tr> <td>委託費比率</td> <td>9.0%</td> <td>9.3%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成28年度実績	平成29年度実績	給与費比率	47.5%	48.1%	材料費比率	31.0%	31.3%	後発医薬品指数	83.9%	85.6%	経費比率	16.7%	17.3%	委託費比率	9.0%	9.3%
項目	平成28年度実績	平成29年度実績																	
給与費比率	47.5%	48.1%																	
材料費比率	31.0%	31.3%																	
後発医薬品指数	83.9%	85.6%																	
経費比率	16.7%	17.3%																	
委託費比率	9.0%	9.3%																	
第5 その他業務運営に関する重要事項	第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するため取るべき措置																		
1 計画に基づいた効率的・効果的な投資 施設整備や医療機器の導入・更新については、社会情勢の変化や周辺の医療状況、市民ニーズ等を踏まえつつ、費用対効果やアセットマネジメントを考慮したうえで計画的に行うこと。	1 計画に基づいた効率的・効果的な投資 医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ、病床規模及び診療体制等の観点から必要性及び採算性を十分考慮し、総合的な投資計画に基づき、高度医療機器の更新・新設及び施設整備等を行います。 参考値 <table border="1" data-bbox="1227 967 1839 1098"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>減価償却費比率</td> <td>7.2%</td> <td>7.7%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成28年度実績	平成29年度実績	減価償却費比率	7.2%	7.7%												
項目	平成28年度実績	平成29年度実績																	
減価償却費比率	7.2%	7.7%																	